

グローバル通信

特集「CHALLENGE」



2016/03/02

NO.28

この春から夏にかけて開催される様々な催しの案内が届いています。以下に紹介しますので、奮って挑戦してみませんか。なおそれぞれ申込期限が設定されていますので注意してください。

Global Math Challenge (世界算数) 団体受験枠設置のお知らせ！

既に教室や廊下に案内のポスターが掲示しており、関心を持った生徒も少なからずいるようですが、こちらの誌上を借りて「Global Math Challenge (世界算数)」の概要を説明します。「世界算数」はソニー・グローバルエデュケーションが主催する世界最大規模のネットコンテストとして行われる学力評価テストです。今回で3回目となるまだ新しいコンテストですが、前回の参加者は世界12万人に上り、今後更なる参加者増が見込まれるグローバルスケールの催しです。

「世界算数」と銘打っているので数学の力を測るテストと思われがちですが、実際は理数系分野の「問題設定・解決能力」を測るテストとして設計されています。これから時代は文理を問わず、知識獲得型の学力に加えて「問題設定・解決」型の学力が重要になるとされていますが、文系（人文社会科学系）のそれに比べ理数系（自然科学系）の問題設定・解決能力については、その内実が今一つ不透明でした。従ってそうした能力を測る物差しの開発も遅っていました。

「世界算数」では、ソニーを中心とした科学研究・開発の現場で活躍されている数学者・科学者・エンジニアの経験から、研究・開発に必要な能力を帰納的に抽出・分類し学力評価の指標（「5つの思考回路」）としています。ですので、「論理的思考力」だけでなく課題解決の現場で必要な「直感力」や「発想力」等も評価されます。

生徒諸君の中には、自分は自然科学分野に自信がある、或いは逆に今一つ自信が持てないという両様の生徒がいると思いますが、科学的能力の内のとりわけどのような能力が自分は優れているのか、はたまた劣っているのかを客観的に把握している生徒はどちらの側にも多くはないと思います。

今回団体受験枠を設けたねらいは、この機会を通じて多くの生徒に自分の科学的能力の客観化・自覚化を行ってもらうことにあります。そして、その評価を「優位な能力を更に磨く」・「弱い能力を重点的に鍛える」などの形でその後の本校での学習につなげてもらうことを期待しています。

団体受験の特典として、①通常1,600円の受験料が1,000円に割り引かれ、②受験可能な期間が通常3日間のところ、3月14日～27日と大幅に拡大されています。

上記の趣旨に興味を持ち受験を志望する生徒には詳しいチラシを配布しますので、

グローバル職員室 中田 か 化学科 平田先生 の所まで取りに来てください。



AIU米国高校生国際交流プログラム in 京都

本校の生徒が3年連続参加しているプログラムです。先般アメリカでのプログラムを紹介しましたが、今回は京都で実施されるものです。同世代のアメリカの高校生と寝食をともにしながら、お互いに自分たちの文化を紹介したり、時には政治的な話題についても議論し合うという内容です。選考はなかなか厳しいですが、参加した生徒はいつもそのプログラムの素晴らしさに魅了されています。

対象となる学年は高校2、3年生。1校2名まで応募可能です。応募締め切りは4月13日ですが、校内締め切りは4月7日とします、春休みが入っていますので、必要書類を3月17日までに、グローバル部に取りに来て下さい。応募者数が多い場合は、校内選考を行います。



Musashi Temple RED Programs 2016

「学校法人根津育英会武蔵学園」が Temple University, JAPAN Campus で開講するプログラムです。Research, Essay - writing, Debate(英語で調べ、小論文を書き、周囲と討論する)の力を涵養しようといいます。首都圏の中・高校生を対象としています。夏休みに開講するサマープログラムと夕方から開講するイブニングプログラムとがあります。プログラム内容についてはホームページで確認できます。また、案内状が届いていますので、関心のある生徒はグローバル部まで取りに来て下さい。なお、4月9日(土)と4月29日(金)に説明会が開催されますので、そちらの申し込みについてもホームページから確認して下さい。

新モンゴル高校ナランバヤル校長来校

来日中の新モンゴル高校校長のナランバヤル先生が、2月15日に来校されました。昨年の10月に新モンゴル高校と本校との間で学術分野で提携関係の覚え書きを交わしましたが、ナランバヤル校長が来校されるのは今回が初めてのことでした。校内の施設や授業を見学して行かれました。



現在は数学科を中心にスカイプを利用して、数学の問題に関する意見交換が継続的に行われています。両校のさらなる交流を目指し、今回はモンゴルでのサマーキャンプのご提案がありました。住居となるゲルを組み立て、電気も何もない緑の草原の中で自給自足のキャンプ生活をするというものです。このプランをすぐ実現するのはなかなか難しいことですが、近い将来海城生がモンゴルの草原を馬で駆け抜ける姿が目に浮かんできます。

(校長室での懇談風景 右側中央ナランバヤル校長)

今回もう一つ御提案がありました。毎年モンゴルの留学生が中心となりゴールデンウィークの時期に練馬区の光が丘公園で、「ハワリシンバヤル」(モンゴル語で「春祭り」)という交流会を開いているそうです。海城生もそれに参加しないか、というものでした。こちらの御提案については、実現に向けてグローバル同好会を中心に今後取り組んでいくことになりました。



シンポジウム「私の留学体験」

2月20日に「シンポジウム『私の留学体験』」を開催致しました。インフルエンザで学級閉鎖のクラスなどもありましたが、約90名の生徒・保護者の方々が参加しました。



(亀田先生)



(清水先生)

英語科の清水先生と亀田先生が、高校1年の時に体験したアメリカ留学について、当時の写真なども使いながらお話し下さいました。また、英語科の永田先生も飛び入り参加して下さいました。

お二人のお話をうかがっていると、留学には語学力よりもバイタリティーが何よりも大切であるということがよく分かりました。(勿論、語学力も大切なですが)浴衣を着たり、派手な服装で学校に行って注目を浴び、できるだけ話をしようとした、というエピソードにお二人の元気を感じました。日本の歴史や文化について勉強しておくことの必要性についても力説されました。

以下に、当日のパワーポイントの一部を掲載します。

【清水先生】

覚悟しておいた方がよいこと

- ・日本の高校生活 → 1年間抜ける。帰国後は必死で勉強
- ・見た目(服装や話し方)による差別 → 気にしないこと!
- ・日本人(代表)としての言動 → 自覚する

【亀田先生】

学んだこと

- ・英語力
- ・うまくいかないことの練習
- ・自分が日本人だということ
- ・いろんな考え方や文化がある、ということを体感

より楽しむためには

- ・自分の意思表示
- ・自分から周囲へアプローチ
- ・ホストファミリー、友達、授業、日常生活の困ったことなど

なお、当日は本校が新たに取り組む「カナダ短期留学」の紹介もありました。この件につきましては、詳細が決定しましたらお知らせ致します。

模擬国連練習会

グローバル同好会 張 奕沖

2月14日に鷗友学園において、模擬国連の練習会を行いました。参加校は鷗友、豊島岡、海城の3校で、また今回の会議は議長をはじめとする運営を海城が行うという、初めての試みでもありました。

海城ではインフルエンザの流行により、中学1年生、及び高校1年生の一部が参加できず残念でしたが、3校合わせて25カ国参加しました。

議題は児童労働で、各国様々な主張がある中、最終的には2つのグループにまとまり、どちらの決議案も可決されました。

初めての対外試合だった生徒も多く、また経験者にとっては運営なども経験し、非常に貴重で得るものが多い会議になったのではないかと思います。

以下は今回の会議で議長を務めた張、副議長を務めた浅野のコメントです。

張「各自良かった点悪かった点あると思いますが、反省点が多いことは構いません。模擬国連は経験が重要になると思います。学校のテストは点数が決まっていて成長が感じられやすいでしょう。でも模擬国連で経験を得たという実感はわかりにくいと思います。反省をして悩んで初めて、経験を得た!と実感がわくと思います。」

浅野「二つの点について述べます。一つ目として、模擬国連に参加したら、国連の大使になりきって欲しいということです。今回、運営として客観的に会議を見ることができたのですが、自分たちの国のこと以前にどのような会議にいるのかわかっていない人たちが多数見受けられました。国連にいる以上、国連の最低限の知識、BGの一番最初に書いてある会議の設定などをよく読み、臨んでいただきたいです。

2つ目として、リーダーはグループのビジョンをグループ内の国に示して欲しいです。今回の会議は海城生が積極的にリーダーとしてまとめていましたが、グループ内の各國がグループの方針を理解しているかというと疑問です。論点の多さとグループの規模の大きさにより、難易度が上がっていきますが、できるだけリーダーシップを見せてください。」



最近、模擬国連に力を入れる学校が増えています。それは単に英語を使えるからというのではなく、物事を調べ、考え、コミュニケーションを取るという作業が中高校生の成長にとてもプラスになるということがわかつてきたからです。かつては帰国子女の催し物という色彩が強かったのですが、現在は、学校行事の一環ともなりつつあります。是非皆さんも参加しませんか。

次の練習会は3月30日、渋谷教育学園幕張で実施されます。本校からは、中学2年生2名、高校1年生6名が参加予定です。